

科目名	単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
簿記	4	1年 情報ビジネス科		新簿記 新訂版 (実教出版)	反復式簿記3級問題集 (実教出版)

学習目標	会社や商店などで、経営状態をわかりやすく知るためには簿記は欠かせない重要な科目である。資産・負債・収益・費用などをよく理解し、利益を得るにはどのような費用が必要であるかなど、現実的な事柄で考え理解を深めていくことを目標とする。高校生にとっては具体的な経営活動の経験がないためなかなか小切手・手形などの理解については時間がかかるが、実社会に出て少しでも役に立つよう具体例を挙げ学習する。
主な学習内容	資産・負債・資本・収益・費用の理解から試算表・精算表・損益計算書・貸借対照表の作成、経営に関するさまざまな取引や伝票についてなどを学習し、当期純利益が出るまでの過程を詳しく学習する。特に当座預金の仕組み、手形の振り出しなど実社会でよく使われているものに対する理解を深め、商取引をより現実的に理解し、いかにして利益をあげるかについて学習を深める。
評価の観点・基準	「関心・意欲・態度」…個人企業における簿記に関心を持ち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 「思考・判断・表現」…各取引におけるいろいろな記帳についての解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 「技能」…個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適切に活用している。 「知識・理解」…個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、簿記の基本的な仕組みについて理解できた。
評価の方法	「関心・意欲・態度」…学習に対する積極性と問題演習の取組状況を評価 「思考・判断・表現」…課題解決方法等を簿記のしくみをもとに説明できるかを、グループ協議や発表により評価 「技能」…基本的な帳簿の記帳や、決算書等を作成する技能等を、小テストや定期テストにより評価 「知識・理解」…簿記の意味や要素、基本的な取引の仕訳についての理解等を、小テストや定期考査により評価 以上を総合的に評価する。

学期	内容
1 学期	簿記とは何かを学習。資産・負債・収益・費用・資本をよく理解しその仕訳と、貸借対照表・損益計算書の作成を行う。(基礎的な表を完成し利益・あるいは損失がでてしまうことを理解していく。) <p>すべての基本になる勘定科目を確実に理解し正確な仕訳を理解していく。また、仕訳帳・総勘定元帳・補助簿の作成方法を身につける。(仕訳が確実にマスターできていないと帳簿に必ず間違いがでてしまうので確実な仕訳をし正確な帳簿を作成していく。)</p>
2 学期	さまざまな取引の仕訳を行う。多様な取引に対応できる力を身につける。 <p>精算表・貸借対照表・損益計算書をより深く学習し検定に対応できる力を養う。決算整理事項についての学習を深め正確な表を完成させる。</p>
3 学期	検定問題を中心に全国商業高等学校協会主催簿記実務検定3級合格を目標に掲げ、集中し目標達成に努力する。全商簿記検定3級終了後は全商簿記検定2級の範囲である収益と費用の見越し・繰り延べなどの学習をする。

備考 ・講座の特色 ・履修条件 ・注意事項 等	○演習用問題集・模擬問題集を必要に応じて購入することがある。 ○全商簿記検定・日商簿記検定を受検する場合、検定料が別途必要となる。
-------------------------------------	--